



6・26 東京地本総決起集会 集会アピール

集会アピール

東京地本は6月26日、赤羽会館講堂にて『鉄道業の「安全文化」と「社会的責務」を堅持し、組合員の生活設計と家族の幸せを守るため「新たなジョブローテーションの実施」に全組合員と立ち向かう6・26東京地本総決起集会』を開催し、1. 鉄道業の専門性と技術・技能を現場で養える「各系統のプロ」をつくり出そう！ 1. 安全第一で異常時対応力を高め、社会的責務を果たそう！ 1. 仕事への誇りと働きがい、帰属意識と納得感ある健全な職場をつくり出そう！ 1. 現場力を高めるために仲間意識やチームワークを守り、公正公平で差別のない職場をつくり出そう！ 1. 将来への生活設計に安心感が持てる「賃金」「労働条件向上」を実現しよう！ のスローガンを基に、施策に立ち向かうことを確認した。

3月28日、JR東日本会社が提案した「変革2027を踏まえた新たなジョブローテーションの実施について」の内容は、職場を震撼させた。それは、安全や専門性を全く感じる事ができず、これまで長年にわたって積み上げてきた鉄道業の安全文化と社会的責務を崩壊させかねない内容であるからだ。多くの組合員が「経験労働が否定され、安全性が低下する」「10年以上同じ職場にいて何が問題なのか」「将来の生活設計に安心感が持てない」などの指摘をしているとおりである。

変革2027は、「人口減少」「鉄道による移動ニーズ減少」という経営環境の変化を挙げ、「鉄道を起点としたサービス提供」から「ヒトを起点とした価値・サービスの創造」に転換し、新たな成長戦略を果敢に推進していくとしている。また、政府も厚生労働省の『「働き方改革」の目指すもの』において、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少に直面する中、投資やイノベーションによる生産性向上が課題であるとしている。今、会社が矢継ぎ早に推進する施策は、政府・経済界の動向と密接に関係している。

私たちは、その時々的情勢下において会社施策と向き合ってきた。それは「安全・健康・ゆとり・働きがい」を基軸としたものであり、これまでもこれからも変わるものではない。提案では「ライフサイクルの深度化の見直し」として、2019年度の異動をもって廃止するとしている。ライフサイクルの深度化は、2006年10月の提案以降、8回・全78項目にわたって団体交渉を申し入れ、安全性の向上を基軸として運輸全般を熟知した「運輸のプロ」を各系統に配置していくことを労使で議論し確認してきた。

しかし、今回の解明交渉において、会社は安全性の向上について具体的な回答をしていないどころか、今後の運輸のプロの位置付けについて「運輸のプロという概念を脱却し、職場・支社単位でレベルを上げていく。新たなジョブローテーションの中に運輸のプロはない」と回答している。このライフサイクル制度の見直しは、長年の努力によって築き上げた制度を根底から覆した。これは「経験労働の否定」「人間労働の否定」であり、現場第一主義からかけ離れ、安全文化を崩壊させるものであり認めるわけにはいかない。さらに「任用の基準」による異動は、公正・公平感が担保されずにチームワークの崩壊を招く。「同一担務の従事期間が最長でも概ね10年を超えないように異動又は担務変更することとする」の根拠について、会社は明確な回答をしないことから、組合員を同じ職場に根付かせないことを目的とした「労組対策重視」の人事施策である。

職場がジョブローテーションの議論に集中している最中の6月1日、シーサイドライン新杉田駅において自動制御の無人運転列車が逆走。さらに6月6日、横浜市営地下鉄において始発列車が横取り装置に乗り上げて脱線し、鉄道への信頼を揺るがす事故が立て続けに発生した。折しも、国土交通省がJR東日本会社に対し、異例とも言える「警告文書」を発出した直後の事故である。今こそ、会社は鉄道の本業に向き合い、安全を担保するのは人間の力であることを肝に銘じ、安全第一の企業を築き上げる努力をするべきだ。そして、労働組合は組合員の立場に立ち、経営側と向き合うことが責務である。

東京地本はジョブローテーションに対し、①各系統のプロがいなくなり、専門性や技術・技能が現場で養われていかない ②安全に関する教育・異常時等の対応が弱まり、鉄道の根幹にかかわる事態が起きてしまう ③担務の変更・異動が強制され、仕事への誇りや働きがい、帰属意識が薄れていく ④評価に対して敏感・過剰になり、チームワークが弱まることで現場力が低下する ⑤賃金を含む生活条件が現行よりも下回り、将来への生活設計・安心感が持てなくなる 5点の問題意識から組合員との議論を重ね、解明要求案・基本要求案をつくり出した。この要求案の実現をめざし、全組合員の総団結でたたかいを積み上げていこう！「新たな30年を展望する施策実施に向けた確認メモ」に則り、鉄道の安全と社員の健康の双方を実現し、未来の鉄道を私たちの手でつくり出そう！

以上、アピールする。

2 0 1 9 年 6 月 2 6 日
東日本旅客鉄道労働組合東京地方本部
鉄道業の「安全文化」と「社会的責務」を堅持し、組合員の生活設計と家族の幸せを守るため「新たなジョブローテーションの実施」に全組合員と立ち向かう6・26東京地本総決起集会

アピールを読みあせ、議論を深めよう！